

「悔い改めなさい」

使徒 2 : 29-42

木村一充牧師

本日は、教会の暦で「聖霊降臨日」と呼ばれる日曜日です。この日は新約聖書中では「ペンテコステ」と呼ばれます。ペンテコステとは「50 日目」を意味するギリシャ語で、イエス・キリストの復活の日から本日まで数えて、ちょうど 50 日となります。この日、エルサレムに留まり、祈っていた主の弟子たちの上に天からの聖霊が降るという出来事がおこりました。あの復活の日以来、主イエスは、弟子たちの前に 40 日にわたって姿を現わされ、神の国のことを話されました。その 40 日目、最後の日に主は天に上げられます。弟子たちは、その様子を見ながら呆然として天を見上げていました。すると、白い衣を着た二人の人が彼らに言うのです。「ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。あなた方から離れて天に上げられたあのお方は、同じ有り様で再びおいでになる」主は再び来られるというのです。そこで、弟子たちはイエスの母マリアとともにエルサレムに留まり、彼らが泊まっていた二階の部屋で一所懸命祈りました。10 日間におよぶ彼らの祈りの後、彼らの上に激しく吹く風のような音とともに聖霊が降ったのです。この聖霊は、神の力として私たちの上に吹きかけられる神の息です。ヨハネ福音書 14 章を読むと、主イエスはご自身が父のもとに上げられた後、父が代わりに「弁護者」を遣わすと書かれています。以前の口語訳では、ここは「助け主」と訳されていました。元の言葉は「パラクレートス」といいます。「傍らで呼びかける人」という意味です。みなさんの中には「聖霊」と聞いてもよくわからないと言う人があるかもしれません。しかし、難しくないので、聖霊とは、あなたの傍らで呼びかける神の霊のことです。「あなたは一人ではない、孤独ではない。」「わたしはあなたを愛している」と呼びかける神の呼びかけ、それが聖霊であります。

使徒言行録の 2 章の冒頭に、「五旬祭の日が来て」とありますが、旧約聖書の時代、ペンテコステは七週の祭りと呼ばれました。この祭りは、過越しの祭りが終わってから七週間後に小麦の収穫を主にささげる祝祭でした。エルサレムには各地にちらばっていた離散のユダヤ人が礼拝をするために集まっていました。この時、天から炎のような舌が分かれ分かれになって下り、弟子たちの上にとどまったと書かれます。そのあと、弟子たちは他の国々の言葉を語り始めたというのです。巡礼のために世界中から集まってきたユダヤ人たちは、弟子たちが話すその言葉を聞いて驚きました。話をしているこの人たちは、ガリラヤの片田舎から出て来た漁師たちだ。それなのに、なぜ彼らは自分らの出身地の言葉話せるのかと驚いたのです。舌という言葉は英語で *tongue* といいます。そして、この *tongue* はそのまま言葉という意味を持っています。*native tongue* で「母国語」という意味になります。しかし、本日の聖書が語ろうとしているのは、聖霊降臨という出来事によって、弟子たちがいきなりバイリンガル、トリリンガルになったということではありません。そうではなく、聖霊が働くことで、弟子たちの語る言葉が人に伝わる言葉として聞かれたということです。語り手と聴き手の間に、確かなコミュニケーションが成立したということです。私たちは、しばしばこれと逆の現象が起こることを知っています。「あの人には、何回話してもわかってもらえない！」…それは、私たちの中に頑なな思い、怒りや敵意という負の感情があるからです。相手の言葉をシャットアウトしてしまう心の障壁を取り除く働き、それが聖霊の働きにあるということです。私たちが教会で交わす言葉は、そのような聖霊に満たされた言葉でなければなりません。

先ほど 4 人の方に読んで頂いた聖書では、イエスの第一の弟子であったペトロの説教が記されています。その要点は、イエスこそ旧約聖書が証言する本当の救い主であるということです。神はこのイエスを死人の中から復活させられた。このお方が今や天に上げられ、父から約束された聖霊を注いでくださるお方であるとペトロは語ります。「だから、イスラエルの全家ははっきり知らねばなりません。あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなさったのです」人々は「大いに心を打たれ」とありますが、原文はもっと激しい表現です。「心臓を突き刺された」と書かれています。およそ 50 日前イエスの逮捕の際は、主を裏切り、信仰さえ失いそうになっていたあのペトロ。その彼がここでは見違えるような力強い説教を語っているのです。これも聖霊の力です。人々は尋ねました。「わたしたちは、どうしたらよいのですか」これを聞いてペトロは応えます。「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。」悔い改めるとは、考え方の方向転換をするということです。今までは、自分は正しく、周りが悪いと思っていた。しかし、そうでないかもしれないと思うのです。これまでは自分は変わる必要がないと思っていた。しかし、自分が変わらなければいけないと思うのです。だれも信じられない。神さまなんていないと思っていた。しかし、信じられるお方がいると考えを改めるのです。このペトロの説教を聞いて何と 3000 人もの方がバプテスマを受けたといわれています。すごいですね。

かく言う私も、信じることで生き方が変えられた一人です。神の聖霊には私たちの人生を変える力があります。私
たちもこの聖霊の注ぎを受け、神さまの力、神による救いを喜ぶたいと思うのであります。

お祈りいたします。